

令和 7 年度

事業報告書

旭川市工芸センター



令和 7 年度 事業報告書

目 次

1	工芸センターの概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	技術指導・各種相談・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3	機械設備使用・試験分析業務・・・・・・・・・・	4
4	研修会・講習会・講演会・・・・・・・・・・・・・	5
5	販売促進支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6	情報収集・発信事業・・・・・・・・・・・・・・・・	6
7	受入研修・派遣指導等・・・・・・・・・・・・・・・・	7
8	講師・審査員・委員等派遣・・・・・・・・・・・・・	7
9	事業等紹介 ～令和 7 年度の取組～・・・・・・・・	8

1 工芸センターの概要

当所は、旭川市の主要産業である木工芸及び窯業の生産技術向上並びに品質の改善等の研究指導を行い、これら工業の振興発展に寄与することを目的に設置された。

(1) 沿 革

昭和12年(1937)	4月	技術指導機関として、木工、窯業、農産加工を含む旭川市立産業指導所が設置される。
昭和18年(1943)	3月	第二次世界大戦のため、産業指導所を廃止する。
昭和21年(1946)	1月	業界の要望、地域の特殊性を生かすため、常磐公園内に旭川市窯業指導所が設置される。
昭和23年(1948)	10月	9条通9丁目に旭川市共同作業所が設置される。
昭和30年(1955)	4月	共同作業所を廃止して旭川市木工芸指導所が設置される。
昭和36年(1961)	11月	施設狭あい等の理由により、木工芸指導所を豊岡3条3丁目に移転する。
昭和42年(1967)	4月	施設狭あい等の理由により、窯業指導所を木工芸指導所敷地内へ新築移転する。
昭和51年(1976)	5月	木工芸指導所、窯業指導所を統合し旭川市工芸指導所と改称する。
平成8年(1996)	4月	施設設備の老朽化等の理由により、工芸指導所を緑が丘東1条3丁目（現在地）に移転する。
平成9年(1997)	12月	旭川市工芸センターと改称する。

(2) 施 設

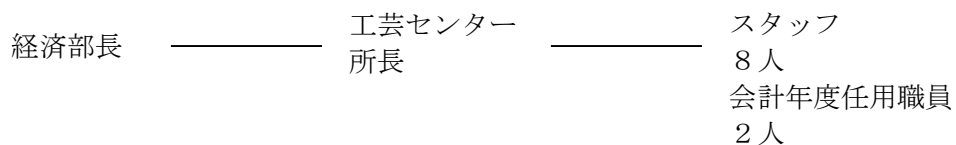
住 所： 旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
敷地面積： 10,315.70㎡
延床面積： 5,520.905㎡（うち工芸センター 1,758.19㎡）

(内訳)

事 務 室	101.13㎡	接着金工室	70.84㎡
ミーティング室	33.94㎡	集 塵 室	56.60㎡
技術開発室	203.40㎡	窯業研究室	192.69㎡
機械加工室	363.93㎡	材料試験室	50.05㎡
合 板 庫	30.60㎡	製品試験室	55.14㎡
資 材 庫	96.00㎡	会 議 室	79.46㎡
塗 装 室	55.00㎡	ショールーム	163.61㎡
木材乾燥スペース	65.02㎡	そ の 他	140.78㎡

(3) 組 織

1 課 9 人（スタッフ制）



(4) 運営委員会

当所の円滑な運営を図り、関係業界、有識者等の意見を反映するため、旭川市の附属機関として旭川市工芸センター運営委員会を設置している。令和 7 年度は 8 月 19 日に開催した。

業界代表		学識経験者	
旭川家具工業協同組合	藤田 哲也	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場	河原崎政行
〃	木村 亮三	北海道立旭川高等技術専門学院	澤田 貴之
旭川建具事業協同組合	河野 広秀	東海大学	笹川 寛司
旭川地方木材協会	宮島 真	国立大学法人 北海道教育大学旭川校	小泉 匡弘
旭川木のモノ組合	井上 寛之	北海道インテリアコーディネーター協会	中村 雅彦
旭川陶芸協会	滝野沢泰子		

※任期：令和 5 年 12 月 1 日から令和 7 年 11 月 30 日までの 2 年間

(5) 使用料及び手数料（令和２年４月１日料金改定）

① 使用料

設 備		1 件の単位 (時間)	使用料 (円)	設 備		1 件の単位 (時間)	使用料 (円)
木 工 機 械	帯のこ盤	1	460	木 工 機 械	ストロークサンダー	1	720
	高速度単軸面取盤	1	450		プレス機	1	1,250
	卓上ボール盤	1	400		5 軸制御 NC ルータ実験機	1	4,230
	リンク式横切丸のこ盤	1	480		炭酸ガスレーザ彫刻システム	1	2,670
	高速丸のこ盤	1	460		ワイドベルトサンダー	1	1,650
	角のみ盤	1	420		長円ほぞ取機	1	850
	ダボ孔ボーリングマシン	1	700		自動長穴明機械	1	780
	手押かんな盤	1	460		コーナーロッキングマシン	1	780
	自動かんな盤	1	550		糸のこ盤	1	430
	4 軸ほぞ取盤	1	580	試 験 機 器	耐光性試験機	1	890
	エッジベルトサンダー	1	630		恒温恒湿環境試験機(大)	24	4,140
	リップソー	1	540		恒温恒湿環境試験機(小)	24	2,080
	4 点式万能帯のこ盤	1	520		家具強度試験機	1	1,080
	高周波加熱装置	1	1,110		振動試験装置	1	4,600
	そで付昇降盤	1	700	窯業 機械	電動ロクロ	1	180
	高周波ルータ	1	940		真空土練機	1	220
	カットボーリング面取機械	1	970				

② 手数料

業 務		1 件の単位	手数料 (円)	業 務		1 件の単位	手数料 (円)
木 材 木質材 試 験	強度試験	5 試片 (料) まで	910	塗料及び 塗膜試験	塗膜強度試験	1 条件 5 試料まで	400
	含水率測定	1 条件 5 試片 (料) まで	550		耐摩耗試験	5,000 回ごと	420
接着力試験		1 条件 5 試片 (料) まで	910	振動試験		1 条件	26,300
製 品 性 能 試 験	繰返し荷重試験	4,000 回ごと	2,640	その他の木工関連試験		32,400 円以内で その都度市長が定める	
	繰返し衝撃荷重試験	4,000 回ごと	2,640				
	静的強度試験	1 条件	1,240	窯業試験 ・ 調整	吸水試験	1 試料	490
	衝撃試験	1 条件	1,240		強度試験	1 試料	790
	耐久性試験	12,500 回ごと	5,520		乾燥試験	1 試料	310
恒温恒湿処理試験 (大)		1 日	2,560		材料調整	1kg	1,020
恒温恒湿処理試験 (小)		1 日	2,500	その他の業務		32,400 円以内で その都度市長が定める	
恒温水槽試験		1 日	450				
試験分析成績証明書		1 件又は 1 通	310				

なお、使用料・手数料については、令和 8 年 10 月に料金改定を予定している。

2 技術指導・各種相談

企業からの依頼に応じ、技術・設備・管理計画等の個別課題に関し、指導・相談を行った。

技術指導・技術相談の内容	技術指導	相談
木材乾燥	0	0
コンピュータ関連技術	1	1
デザイン	1	0
木材加工技術（木材加工等）	5	5
接着接合・塗装技術	3	1
材料強度関連	1	1
製品の品質、性能に関する技術（JIS試験等）	5	9
窯業技術（釉薬、成型、焼成）	14	8
その他	0	5
計	30	30

3 機械設備使用・試験分析業務

企業等への機械設備貸出、及び企業等からの依頼試験・分析等を行った。

(1) 機械設備使用

設 備 名	件数	時間	設 備 名	件数	時間
木工機械			高周波ルータ	17	26
帯のこ盤	25	36	ストロークサンダー	1	2
高速度単軸面取盤	3	3	5 軸制御NCルータ実験機	11	17
リンク式横切丸のこ盤	44	45	炭酸ガスレーザ彫刻システム	71	137
高速丸のこ盤	47	56	ワイドベルトサンダー	36	40
角のみ盤	2	4	長円ほぞ取機	25	94
ダボ孔ボーリングマシン	4	4	自動長穴明機械	3	7
手押かんな盤	80	100	コーナーロッキングマシン	2	2
自動かんな盤	76	78	糸のこ盤	12	38
4 軸ほぞ取り盤	1	2	窯業機械		
エッジベルトサンダー	17	27	真空土練機	2	7
リップソー	48	51	試験機器		
そで付昇降盤	102	178	耐光性試験機	2	12
総件数 631件			総時間 966時間		

(2) 試験分析業務

業 務 内 容	件 数	業 務 内 容	件 数
木材木質材試験		製品性能試験	
・強度試験	93	・繰返し衝撃荷重試験	201
・含水率測定	37	・静的強度試験	251
恒温恒湿処理試験		・衝撃試験	63
・恒温恒湿処理試験（大）	66	・耐久性試験	210
・恒温恒湿処理試験（小）	8	塗料及び塗膜試験	
		・耐摩耗試験	2
総件数 931件			

4 研修会・講習会・講演会

企業における技術・知識を備えた総合的人材を育成するため、従事者等を対象として、技術・技能の基礎知識、応用・最新技術等についての実習や座学等を開催した。

事業名／講習会名			テーマ	期 間	受講者数	講 師
旭川工芸技術等継承事業	実 習	木製品 実習コース	汎用木材加工機械 基本操作実習	R7. 5. 13 ～23 (うち5日間)	11人	当所職員 千葉 将壽 板垣 和憲
			ウッドターニング 実技研修	R7. 8. 27・28	8人	レジャー産業(株) 代表取締役 中島 信太郎 氏
			木材塗装の 基礎研修	R7. 9. 9・11	6人	(株)共立商会 代表取締役 金盛 俊博 氏
		窯業実習コース	トルコ青釉 -鮮やかな色彩と 豊かな装飾性-	R7. 11. 5 ～26 (うち7日間)	8人	当所職員 佐藤 亜沙美
	座 学	木材接着の基礎		R7. 4. 24 R7. 5. 13・15	16人	当所職員 青木 繁尚 野澤 早織
		木彫の世界		R7. 7. 30	34人	旭川木彫・工芸品協会 会長 菅野 秀雄 氏 副会長 中川 貞司 氏 上西 捷敏 氏 岩間 次雄 氏
		木灰の精製と灰釉の調合		R7. 10. 1 ～9 (うち4日間)	13人	当所職員 佐藤 亜沙美
		越境 EC で切り拓く地方産業の未来 ～旭川から世界 35 か国へ～		R7. 10. 8	43人	(株)北廊代表取締役 永原 大介 氏 FedEX Express 岡本 大貴 氏

5 販売促進支援事業

家具、木彫等及び窯業の各分野において、販路拡大を図る各種展示会の開催・出展の支援等を実施した。

行事名／テーマ等		開催期間	概 要	
家具	Meet up Furniture Asahikawa 2025	R7. 6. 25 ～29	会 場	旭川デザインセンターほか
			出展者数	33 社
			来場者数	9,400 人
木彫・クラフト	木彫りの源流 ～旭川木彫・工芸品協会展～	R7. 8. 21 ～25	会 場	イオンモール旭川駅前店
			出展者数	4 社
	クラフト展 in ニセコ	R8. 2. 18 ～21	会 場	ニッコースタイルニセコ HANAZONO
			出展者数	9 社
			来場者数	約200人
窯業	29th旭川陶芸フェスティバル	R7. 10. 25 ～26	会 場	旭川地場産業振興センター
			出展者数	102窯
			来場者数	10,533人
	旭川冬のやきもの市	R7. 12. 13 ～14	会 場	イオンモール旭川駅前店
			出展者数	8 窯
			来場者数	1,440人

6 情報収集・発信事業

(1) 製造業実態調査の実施

旭川地域における木製家具等の製造業の実態調査を行った。

調査内容	回答件数
木製家具製造業実態調査	58件
木製建具製造業実態調査	18 件

(2) 令和6年度事業報告書の発行 180部

(3) 工芸ニュース第89号の発行 280部

7 受入研修・派遣指導等

旭川地域の企業、教育・関係機関等からの依頼に応じ、技術者、学生等の受入研修・派遣指導等を行った。

機 関 等	内 容	実施期間	受入等人数
旭川家具工業協同組合	技能五輪全国大会出場選手 受入指導	R7.9.1～ 10.27	3人
地域企業等	NC ルータ基本操作研修等	(随時)	7人
地域企業等	木工機械操作研修	(随時)	2人
地域企業等	CAD・CAM 研修等	(随時)	2人
地域企業等	釉薬基礎講習	(随時)	1人

8 講師・審査員・委員等派遣

関係機関・団体等からの依頼を受けて、対象業界の活動を支援するため、職員を派遣した。

派遣先	派遣職員
技能五輪国際大会選手強化委員会 家具職種に係る職種別分科会委員及び訓練指導員	副所長 小関 敬之

9 事業等紹介 ～令和7年度の取組～

(1) 工芸センター・オープンファクトリーの開催

工芸センター創立 70 周年を記念する取組として、当センターの施設内を見学していただくオープンファクトリーを開催した。Meet up Furniture Asahikawa の「オープンファクトリー」事業に合わせ6月25日(水)から27日(金)の3日間にわたって開催し、業界関係者を中心に44名の方々が来所された。

材料試験室では、荷重を受けた部材が破壊に至るまでの応力変化をモニタリングしたり、製品試験室では、荷重や衝撃に対する耐久性試験のデモンストレーションや、海上輸送中のコンテナ内の温湿度環境を再現した恒温恒湿試験機の中に実際に入らせていただくなど、安全で丈夫な家具づくりの取組の一端を体感していただいた。

参加者からは、家具の開発や製品化の過程について理解が深まり、また試験を重ねて安全性を追求する各メーカー様のご苦勞を感じたなどの感想が寄せられた。



(オープンファクトリーの様子)

(2) 旭川市と音威子府村の木工芸の継承普及に向けた連携協定

旭川市と音威子府村は、木工芸の普及継承に向けた取組を相互に連携・協力して進めるため7月7日に「旭川市と音威子府村の木工芸の継承普及に向けた連携に関する協定」を締結した。

音威子府村には北海道で唯一「工芸科」を有する北海道おといねっふ美術工芸高等学校があり、旭川地域の家具メーカー等で卒業生が活躍している。本センターが持つ木工芸技術の知見を生かし、職員の講師派遣や技術指導などを通して家具・木工における将来の担い手確保につなげていきたい。

令和7年度は、9月、11月、3月に外部講師として赴き、授業における生徒への技術指導や講話、教員を対象とした技能検定及び技能五輪に係る講話を行った。

今後も、両地域における木工芸技術の維持・確保、向上を図るため、様々な活動を展開していく。

【連携事項】

- 1 工芸センターで行う家具木工等の技術継承、普及のための講座に関すること
- 2 工芸センター職員による講師派遣等の助言指導に関すること
- 3 インターンシップの受入など家具木工事業者等との連携に関すること
- 4 技能五輪への出場など人材育成に関すること
- 5 木工芸におけるデジタル化の推進に関すること
- 6 その他、両地域における木工芸技術の維持・確保、向上を図るために必要な事項に関すること



(協定調印式)



(技術指導風景)

(3) 講演会「越境 EC で切り拓く地方産業の未来～旭川から世界 35 か国へ～」

越境 EC (Cross-Border e-commerce) とは、インターネットを利用して海外の事業者・消費者と国境を越えた電子商取引を行うことであり、旭川地域の木製品製造業の方々に、自社の技術を活かした商品開発や経営戦略等について考えていただく機会を提供する目的で「越境 EC で切り拓く地方産業の未来～旭川から世界 35 か国へ～」の講演を 10 月 8 日に開催した。

本講演では、平成 18 年に旭川家具を販売するインターネットサイト「MUKU 工房」を立ち上げた永原氏（株式会社北廊代表取締役）と、国際配送を担っている岡本氏

（FedEx Express 営業部係長）を講師に招き、E コマース市場で近年特に大きな割合を占めている海外販売について、越境 EC の現状や実務に加え、国内市場の縮小を見据えた海外戦略の必要性などについて講演いただいた。



(講演風景)

(4) 技能五輪全国大会(家具職種)出場選手の受入研修

技能五輪全国大会が、10 月 17 日(金)から 20 日(月)の 4 日間にわたり愛知県常滑市の「AICHI SKY EXPO」で開催され、家具職種には旭川地域から 6 名が出場した。

大会に向けた受入研修は、旭川高等技術専門学院と当センターに分かれて実施し、中川仁氏（コーナス）、小亀弦氏（(株) ガーजीカームワークス）、高橋溪純氏（(株) 匠工芸）に対し、9 月から当センターにて受入研修を実施した。

課題であるキャビネットを制限時間内に精度と仕上がりが良い状態で完成させることを目標に、部分練習と通し練習、また、本番と同じ形式で 6 名が揃った合同練習を行い、緊張感ある雰囲気の中で技術・技能を磨いた。

本番では、脚の形状や貫の位置などに課題変更があったものの、加工手順や作業進捗状況の確認などをしっかり行い、小亀氏が銀賞を、中川氏・高橋氏が銅賞を受賞する結果となった。

また、旭川地域から出場し金賞を受賞した楠本恭治氏（(株) ウッドパーツ）は、令和 8 年 9 月に上海で行われる国際大会「World Skills Competition in 上海」への出場が決まり、全国大会直後から旭川高等技術専門学院にて訓練を開始しており、今後当センターとしても訓練補助などのサポートを行っていく。



(製作課題)



(研修風景)

(5) クラフト展 in ニセコの開催支援

旭川木のモノ組合が、インバウンドで賑わう冬のニセコで、クラフト製品の展示販売会を開催し、工芸センターとして補助金による支援を行った。

本展示会は、今後の海外への販路拡大を見据えて外国人の反応を確かめようと、2月18日(水)から21日(土)までの4日間、ホテル「ニッコースタイル・ニセコ HANAZONO」のロビーで、クラフト製品など約150点を展示・販売した。春節休暇の時期と重なることもあり、およそ200人の来場者の大半がアジア圏を中心とする外国人で、家族連れも見られた。

訪れた多くの方が実際に商品を手に取ったり遊んだりし、デザイン性やクオリティの高さを評価する声を多くいただき、中には多額の購入をされた方もいた。

また、帰国後のオンライン購入や、今後旭川を訪問する際にはショップや工房を回りたいといった声も寄せられるなど、旭川のクラフトが海外の方々にも好評をいただくという手ごたえのあった展示販売会となった。



(展示風景)



(開催風景)



発行：旭川市工芸センター

〒078-8801

北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL：(0166) 66-1770 FAX：(0166) 66-1776

URL：<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/364/365/369/d053192.html>

e-mail：kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp